

12月定例市議会 補正予算案・企業会計決算など 23議案を可決



▲議案の提案理由を説明する島山市長

十二月定例市議会は、十二月六日から十七日までの十二日間わたって開会されました。今定例会では、一般会計の補正予算案や老人保健特別会計予算案などのほか、閉会中審査になっていた五十六年度の水道・病院事業会計の決算が承認されました。

一般会計に 一億二千九百三十三万円追加

一般会計の歳入歳出にそれぞれ一億二千九百三十三万円を追加し、予算総額は百三十四億五千八百四十四万四千円となりました。主なものは次のとおり。歳入の追加では、五十六年度からの繰越金が一億

八十一万円と最も多く、次いで地方交付税の九千八百九十九万円となっている。しかし、市民税の個人分については、地域経済の停滞影響などで当初見込み額より八千七百七十三万円を減額しました。

歳出の補正では、老人福祉費、身障者福祉センター建設事業費、生活保護費、各種検診事業、学校管理費、公共土木施設災害復旧費などに追加されました。

人権擁護委員に本多、奈良岡氏を推薦
今定例会で人権擁護委員の候補者に次の両氏を推薦することになりました。

・本多 一郎 (60歳、銀釣)
・奈良 敦一郎 (71歳、十二所町)

国民年金だより

保険料は忘れずに納めましょう

国民年金の保険料は、納付期限までにキチンと納めておきましょう。

なお、納め忘れをなくするには、一年分の保険料を一回で納める前納制度が便利です。



保険料を滞納すると大変な事になる

保険料は所得控除されます

国民年金の保険料は、社会保険料として所得控除を受けることができます。

控除を受けられるのは五十七年中に納めた保険料の額です。これは、翌年以降の保険料を前納したときや、納め忘れていた分を五十七年中に納めたときの額も含まれます。

お手元の領収書で一年間に納めた保険料額を確認のうえ申告の際には忘れずに控除の手続きをしてください。

▼57年中の保険料月額
・1月～3月 4,500円
・4月～12月 5,200円
・付加保険料額 400円

病院事業

56年度 企業会計 決算

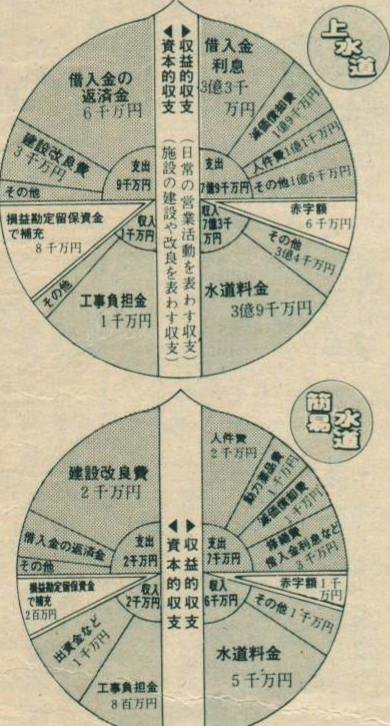
水道事業

五十六年度の市立総合病院事業は六月一日から医療費の引き上げと薬価基準の大幅引き下げが同時に進行したため、医療費の改定による影響は小幅にとどまり、財政的に緊迫した年でした。こうした状況の中で神経精神科の改築など医療施設の整備を図るとともに、

諸経費の節減を重点に経営の健全化に努めてきました。五十六年度の病院事業決算は右の図表のとおりです。病院の利用状況……入院患者数は年間延べ十六万六千九百九十九人(一日平均四百五十五人)、外来患者は年間延べ三十一万二千八百三十二人(一日平均千五百十三人)となっています。

五十六年度の水道事業は、五十六年十月から水道料金を平均二・四割引き上げを実施しましたが、前年に続く冷夏や節水型使用などで使用水量の伸び悩みに加えて給水戸数も横ばいの状態でした。また第二次拡張工事費として国などからの借入金返済金の増大や物価の高騰などで厳しい財政状況でした。こうしたなかで日常生活に欠かせない水を

安全・確実に送り続けるため、厳しい財政の中で経費の節減を図るなど懸命の努力をさせていただきました。しかしこれまで積み上げた水道で四億六千三百万円、簡易水道で千四百五十九万円もあり、依然として苦しい状態となっています。



こんにちは保健婦です

2月1日から7日までは「成人病予防週間」です。寒さがピークになるこの時期は脳卒中や心臓病といった「血液の通り道」にかかわる病気が多くなります。次の点に気をつけ、日ごろから予防に努めましょう。

- △高血圧の予防に血圧を管理しよう
- △タバコ、アルコール、カロリーの取り過ぎにご用心——動脈硬化の予防
- △精神の安定を保ち、急激な運動は避ける。また寒さから身を守る。
- △便秘にならない
- △長湯は禁物



市長の対話ノート No. 61

近視眼

「今をどう生きるか」これ程不況が続けば確かにそう考えざるを得ないことも多いでしょう。しかし、それで誤りの少ない対応策が立てられるでしょうか。行政改革については多くの議論が重ねられていますが本質を忘れた議論が多いのではないのでしょうか。その一つは日本の生きる道でしょう。資源をもたない狭い国土に、多くの人間が共に快適に生きる道、そこには「平和」への自らの努力と技術立国への指向こそが最優先されるべきではないでしょうか、そのことは少しも出て来ません。限られた耕地で、増え続ける人間が生きていくためには、食糧問題により以上の増収技術を追求めなければならぬはずですが、それは逆の議論が重ねられていいます。石油事情が少し好転したといいますが、とんでもないことで、世界的不況という事情を忘れてしまっているのです。それやこれや、今のことを考えた行革や財革をやろう、しかも圧力の強い部分を避けて、弱いところの……。

何れも政府のことだけではありません。私を含めて、日本人はそんな近視眼的なモノの見方を優先する欠点をもっているのではないのでしょうか。今こそもう少し先を読む余裕と力をつける時ではないでしょうか。何も特別むずかしいことではなくて、人間の行動には一定の法則があるので、経済にも法則があるので、それを可能な限り、誤りの少ないように読みとることでしょう。そんな余裕をもちたいものです。

島市健治郎